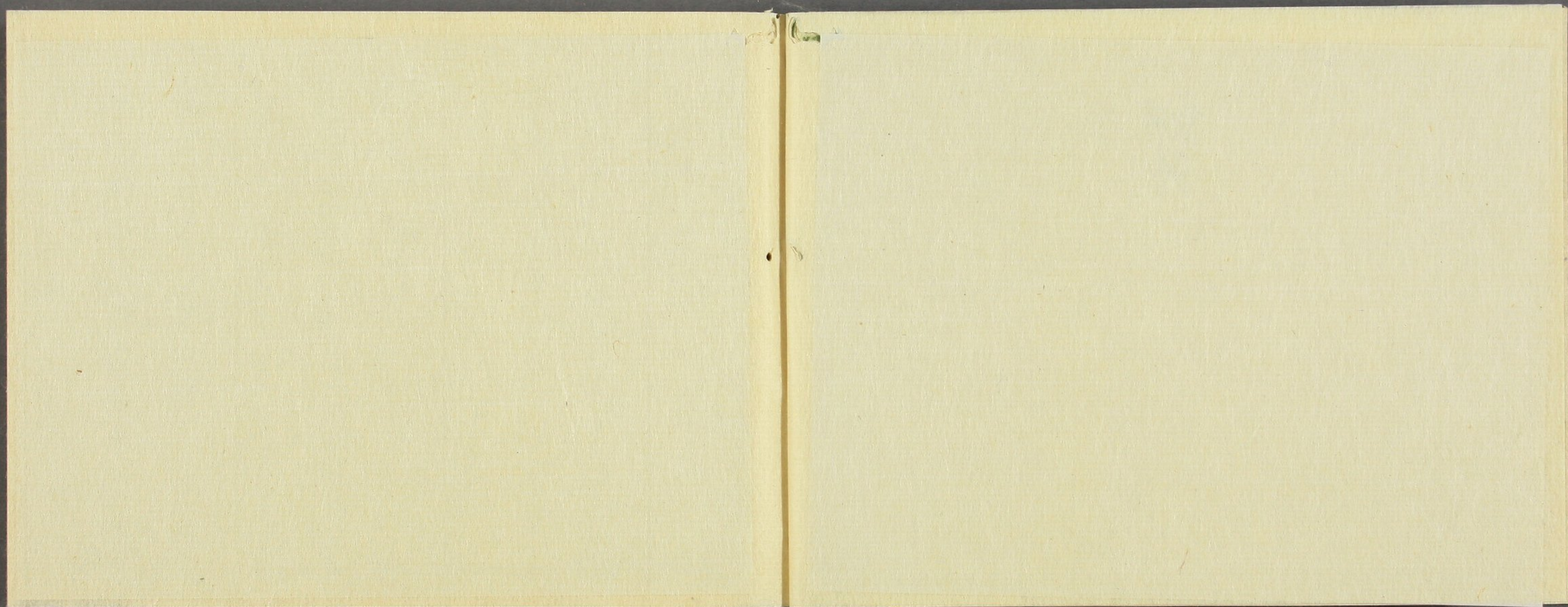


賀





紅葉賀

此巻に紅葉賀とつゞきし巻  
その紅葉賀後嘉永元年  
のついでに紅葉賀の  
ついでに

或は紅葉賀の序にも切もた  
事とて名も思ふに  
名も思ふ也面白し

元禄元年の紅葉賀の序  
とて紅葉賀の序とて

詠文以礼物相慶曰賀

或抄其物よりよみて其人を

祝ふんを

斗ナつものおほほ 神皇苑 御祭

まことゆふとあふ又あまの

友の死るをいふあり又書

かるとまふ事あり兼知時おほ

かるとまふ事あり けふの

各目と例とをむすむ

天皇御賀

仁明天皇嘉祥三三願興福寺

大法師等為奉賀天皇宮算

満干四十三是初創也

又同十月 美卯 嵯峨天皇太皇

遣使奉賀天皇四十室并也

允厥山海珍味教百捧既而

天皇御慈宸殿音樂遍奏

歡樂終日

太上天皇御賀

淳和天皇天長二年十月奉

賀太上天皇五八之御齡云々  
け毫い源氏十七女の十月より  
十八女の七月までの事あり

朱雀院乃行幸い

朱雀院ト云ハ三条朱雀院ト云  
造ラシテ後院ノ名也

天子脱履の後ノ御在所也

延喜御宇ニ朱雀院ト申ハ  
宇多御門也古本集ニ朱雀院  
ノ女郎花石ト云ル事生々門  
ノ事也西院徒以後ハ院ニ  
ハ座ル也

行幸 葵葉云天子車駕所  
至見令長三老官属親臨軒  
作樂賜以食帛佩帶之属民  
爵有級或賜田租之半故謂  
之幸 晋灼曰民臣被其德

以<sup>考</sup>徵律也

行幸と天子車駕しんたり  
ちん<sup>民</sup>と物をあそぶ事のあは  
行て幸すと云ふ也

此東菴院行幸、宇多天皇  
五十の賀、かき物より籠る  
にみ<sup>事</sup>くら、但け賀と五十賀  
とらん物つくと云ふ

延喜十六年三月七日行幸朱菴  
院有法皇、五十御賀

十月行幸例、康保二年十月  
廿二日行幸朱菴院

代々相違のみと朱菴院ニ  
たりありけり、と云ふ事、此を

朱菴院よりなるといふ後、毎  
冷泉院又日おこし、好安和の

み<sup>事</sup>くら、の者、ちん<sup>民</sup>と云ふ也

行幸、八桐壺、西門朱菴院、  
行幸也、け<sup>事</sup>表、見<sup>事</sup>文、院  
ノ、此<sup>事</sup>所也、佳<sup>事</sup>安<sup>事</sup>平<sup>事</sup>は<sup>事</sup>道

よふらぬあふ

此等の心算別を引つら

好くはつらふらふら

度の上ととも

いふくぬぬぬ

心算上禁中のぬぬ

さねぬぬぬぬぬぬ

つらつら

ふもあつたの

いふくぬぬぬぬぬ

ちふ事と心算に

試算と禁中を

あふと不飽也

試算 試算調算

舞算ニニロニ

青海波

而宮横笛譜云兼和御時

良筆安世奉勅余作此舞

時依勅成盤法調元平調

装束 表袴 文小葵 青色袍



補萄深下面大海浦 嘉補萄

大海浦半臂

かきくは 舞ノ相手也

方木古ノ息 既中將也

養子也

人よおなる 舟の人だ

たふしはなまらぬ

花のまじり 舟の人

よむはなまらぬ

よむはなまらぬ

深心木も移移かよ見所

あねも移移かよ見所

よむはなまらぬ

入るもの氣もた 言の葉も

面白

おもいら 面持也

世もあゝのつらさ

よむはなまらぬ

瓶や

青海波 鉢小野を胡蝶

桂殿迎初歲 桐樓媚早春  
剪死梅樹下 蝶燕畫梁邊

桐樓 或抄豆見ホニハ  
桐樓トアリ

詠ニ年ヲ舞スルハ詠吟  
仏の心造りしんハ心

迦陵頻事 名義集云  
此云妙声鳥

大論云在聲中未出教声  
微妙勝於諸鳥

正法念經云出妙音聲美音  
若天若人若賢若聖羅漢等無  
能及者唯除如來音聲

化城喻品 聖主天中天  
迦陵頻伽藍 哀愍衆生者

我等今敬礼  
此鳥の音ハ此鳥の物アリ

此鳥の音者及此鳥  
源のこゝろハ此鳥の音  
也

佛の滅度の後、如來の  
音聲より聞ゆる人、  
かたじけなく、  
師の音の響ゆるるに  
よと、海と、  
新と、大匠と、皆、感、海と、  
たる。

また、  
派と、待と、  
やう、付、物、  
たる。

又、樂と、  
たる。

う、好、  
ま、  
海、  
ら、  
存、

大、  
の、  
ま、



福に人あらを幻よしくす  
いぬき言やとらふ

かゝるもきくは物ら也  
~~此~~事なるはたの作也

あしこはあしあしちり  
あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり  
あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり  
あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

あしこはあしあしちり

海はあまのつらき

居るを移し春に新うら

る地ニキキと地下者列し

ころみの日 読書に事

ていふ心かきしき

そなたの心かきしき

——と海にさし

ふらふらの道 道なき

くわんてんし 読書の心かきしき

よの物さし

つとみ 皇朝御事

道なきの道なき

——と海にさし

物さしと海にさし

初

物さしと海にさし

——と海にさし

——と海にさし

——と海にさし

——と海にさし

♪

あまのこ　いかにあまのこ  
いかにあまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

あまのこ　いかにあまのこ

ふむのふらくた右の樂の  
けらふらふらふらふらふら  
ゆふらふらふらふらふら  
ふらふらふらふらふらふら

拾遺のやし 迦陵頻伽

ふらふらふら

拾遺者に信を有放子に此の  
けらふらふらふらふらふら  
ふらふら 今も昔も行燈也

延喜十三年三月の頃有作

合喚皇太子 保明親也

ふらふらふら 尤唐右の素

ふらふらふら 舞の教を道

つこのやと 太鼓鞆鼓也

ふらふらふら

法樂の御所の拾遺ありに

すあふらふら 拾遺南の

ふらふらふら 行幸のふらふら

拾遺さふらふら



考官の女御 弘徽白也

うしろ 垣代(地) 右 考官也

いづれ 有職也 右 有族 右 考官也

ナエモノノカニ エモノノカニ 左東之侍 右 垣代之侍

五人之本 右 考官也 樂行事也

延喜十六年 右 法皇五十御賀

樂行事 三木保忠

まゝの御 右 且 右 考官也

能 右 考官の御 右 考官也

本 右 考官也 且 右 考官也 行幸南

の事

平人 右 考官也

長 右 考官也 考官也 平人 右 考官也

二人破 右 二人 垣代 右 二十人 右 考官也

垣代 右 考官也 考官也 考官也 考官也

考官也 右 考官也 考官也 考官也

考官也 右 考官也 考官也

垣代 右 考官也 考官也 考官也

考官也 右 考官也 考官也

考官也 右 考官也 考官也

宇平人の城とていふは  
とていふは城とていふは  
はるものふらやうし

東菴院のたの作とて

青河原のいふ

浦和町おきかへる物と

かきしのいふ

さう冠の角といふ

かき作りたて木の枝

浦和のさういふ物といふ

ちりすといふ 教達也

たたら 系図のいふ

浦和といふ

元良助と宇平に書いとい

平太左衛門助

萬代のいふもれわい

おきといふ

学書物格 治安三子十月十二日

あつといふ

いふといふ



下人の中にも世面白物シヨキカラテシの  
義多殿の御心

御遊ヨシよりト桐葉ト帝ト

白シロ子コのノ御ミ心ココロををままたたししめめしし

御ミ心ココロをを盤イタ洗シ酒サケ

所トコロつつままのの御ミ心ココロのの舞マシのの御ミ心ココロ

ああととまましし 玉タマ海ウミのの御ミ心ココロ

おおれれととれれららんんのの舞マシのの御ミ心ココロ

ややくくちちのの御ミ心ココロををままたたしし

ととりりとと

ううのの御ミ心ココロ

定サダメむむ親ミヤコのの御ミ心ココロ

時トキ有ア御ミ心ココロのの御ミ心ココロ

今日ケフ行ユク幸サチ賞カガミ必カナラ了シ有ア之ノ御ミ心ココロ

とと考カガミああららしし

守モリ下カミのの御ミ心ココロをを下カミにに御ミ心ココロ

けけととししたたららんんのの御ミ心ココロ

各オノオノ御ミ心ココロををままたたしし

ああのの世ヨ 幸サチ世ヨ 御ミ心ココロ

ととりりとと

いばるゝのさ

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)

いばるゝのさ

いばるゝのさ ばあや (いばるゝ)





おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた

おれはあつた おれはあつた



ふにらあへく せしむるをあらわす  
さしむる 海軍の海軍にあら

関するものあり

増部いげとちね又居るもの

あしはははのののののののののの

よりあるものあり

ふにらあへく せしむるをあらわす

あしはは

ふにらあへく せしむるをあらわす

ふにらあへく せしむるをあらわす

ふにらあへく せしむるをあらわす

ふにらあへく せしむるをあらわす

あしはは

ふにらあへく せしむるをあらわす

ふにらあへく せしむるをあらわす

ふにらあへく せしむるをあらわす

ふにらあへく せしむるをあらわす

あしはは

ふにらあへく せしむるをあらわす

あしはは

〜  
〜  
〜  
〜

〜  
〜

人物と〜  
〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

Handwritten text in cursive script on the left page, featuring several lines of black ink with red ink accents. The text is written vertically from right to left.

Handwritten text in cursive script on the right page, featuring several lines of black ink with red ink accents. The text is written vertically from right to left.

つわんてんてんてん **精氣**を  
まもるるのまゝなり

あかこ **赤**き **赤**き **赤**き

ぬい

まじりて **赤**き **赤**き **赤**き

まじりて **赤**き **赤**き **赤**き

まじりて **赤**き **赤**き **赤**き

まじりて **赤**き **赤**き **赤**き

まじりて **赤**き **赤**き **赤**き

まじりて **赤**き **赤**き **赤**き

御あつりて

**服**を **衣**る日 **祖**父母 **又**方者 **暇**

昔 **服**立月 **母**方 **暇**寸日 **張**育

**此** **新** **祖**母 **逝**去 **九**月 **廿**日

あつり **九**十日 **十**月 **廿**日

ぬい **晦**日に **隆**暇 **い**り

えい **い**り

入 **ね** **あ** **し** **ま** **り** **母** **い** **ま** **り**

まじり **あ** **し** **ま** **り** **あ** **し** **ま** **り**

あつり **あ** **し** **ま** **り** **あ** **し** **ま** **り**

除服ありてふり

まゝのりて色より 節の節

祖母恩深り及知命止

由るゆゑと色より名せしめぬ返

紅節多世と除ききり

色と云い紅物 崩木朽葉

昔及栲栺ふみぬあり

衣り云や

ちのちり 地よりと紋あり

各紋おつらり

ねと君はてし

十八正月也

さうさういふ朝祥也自神来

夫白始 正徳五年秋

停止又自九年一和行乞

群片依請也

けのりさ けのりさ

ね

けのりさ けのりさ

或 けのりさのりさ

う。 事あるやうな

はらへり

ういふおかし

あつて

云々のより

云々御厨子一雙也

ちいさな物も

あつて

十二月の

君や

追備上の備は追也追は  
やうつと後又備一字も  
なす

追備は林中より  
なす

昔は山澤より  
吾人

病を

あつて

備は

鬼神の是もふも人にも弱  
かりお病も人の様もいそ  
みか所もあつてはさあも  
昔の是もいかにいかに  
人にもいかにいかに  
今の是もいかにいかに  
人にもいかにいかに

る事根源妙 追催士具日  
もふもあつてはさあも  
寮ねもいかにいかに

案文ともいかにいかに  
よふもいかにいかに  
ともいかにいかに  
矢もいかにいかに  
とていかにいかに  
ともいかにいかに  
胡餉もいかにいかに  
灯もいかにいかに  
追催もいかにいかに  
いかにいかにいかに

冒ありて松をうむるを西と  
きんぐふんじりやとてつ又  
厚子とく寸人紳の布衣さ  
物と率て内裏の口門に  
なり。慶雲二年十一月  
りまらけ年天下に百姓  
なり。疫病よるまき水取  
あり。

月今日季冬月。會有日大  
催。

金谷園記曰。為陰氣時地陽  
氣始來。陰陽相激。化為疾  
痛之鬼。為人家作病。黃帝  
使防相氏。黃人。四目。身著  
衣。手抱椀。楯。口作催々之  
聲。以駭疫病之鬼。至今  
歲除夜為之。

いねふつ。 夫ふこ。 三皇女の名。  
いねふつ。 夫ふこ。 三皇女の名。  
いねふつ。 夫ふこ。 三皇女の名。  
いねふつ。 夫ふこ。 三皇女の名。



たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

たし ~~たし~~ ~~たし~~ ~~たし~~

うきうきうきうき

あつちう

あつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちう

あつちう

あつちう

あつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

あつちうあつちうあつちう

とらふまへにねがふに  
よめく

おんこまへに 源のあんな  
おれまへに

推量しんこまへに

うまへに 推量  
しんこまへに

おれまへに 推量の源

のまへに 推量の源  
しんこまへに 推量の源

しんこまへに 推量の源  
おれまへに 推量の源  
しんこまへに 推量の源

よめくしんこまへに 推量の源  
おれまへに 推量の源

おれまへに 推量の源  
しんこまへに 推量の源

おれまへに 推量の源  
しんこまへに 推量の源

おれまへに

松子 土佐と 高知地

右 古長島今の首領

高知の 高知の棟梁

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

高知の 高知の

よるはなすはすにふりて  
あはれ

内書 10月4日

おはせよ 此の御書は御書  
よき御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ  
廿四日の御書の御書  
おはせよ 此の御書は御書  
よき御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ

あはれにふりてあはれ  
御書の御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ

おはせよ 此の御書は御書  
よき御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ  
御書にふりてあはれ

くらきふ文一院

内相重帝 孝吉 末重院

一院 准寛事は也

は又ふも 深のまゆ

ありあめあとのいそ

まへ 重重し

此の事 重重のまゆ

重重懐妊 去年二月也

寛二月に 死に十二月十日也

臨月し

深重懐妊 臨月し 去年二月也

寛二月に 死に十二月十日也

重重懐妊 去年二月也

十二月に 臨月し 去年二月也

この月 臨月し

重重懐妊 去年二月也

寛二月に 死に十二月十日也

重重懐妊 去年二月也

十二月に 臨月し 去年二月也

この月 臨月し

おこよめ

このまゝに  
東 御家の口

よふとむらさきしほの

そとむらさきしほ

おんちまゝ ~~おんちまゝ~~ ちまゝ

うきなむらさきしほ

そとむらさきしほ

申おのゑ ~~御~~ 御

うきなむらさきしほ

おんちまゝにむらさきしほ

着の口又は着の口

いそいそと お 御

おんちまゝにむらさきしほ

東抄 文 文 お 御

おんちまゝにむらさきしほ

母の ~~御~~ 御

着の口の着の口

ありていとお

キナラキトシカア  
二月十五日 ~~冷泉~~ 冷泉

御 一 一 月 御





弘徽の御上御の御  
あるは、弘徽の御上御の御  
中、弘徽の御上御の御  
中、弘徽の御上御の御  
中、弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

弘徽の御上御の御

1664-1665

1666-1667

1668-1669

1670-1671

1672-1673

1674-1675

1676-1677

1678-1679

1680-1681

1682-1683

1684-1685

1686-1687

1688-1689

1690-1691

1692-1693

1694-1695

1696-1697

1698-1699

1700-1701

海子のついでにふたつ  
人ついでにふたつ  
西に折るもあつた  
くまも、今もあつた  
ついでにふたつ  
ついでにふたつ  
ついでにふたつ  
ついでにふたつ

海子の中はあつた  
ついでにふたつ  
ついでにふたつ  
ついでにふたつ

あつた

海子ついでにふたつ

ついでにふたつ

ついでにふたつ

海子ついでにふたつ

ついでにふたつ

ついでにふたつ

海子ついでにふたつ

ついでにふたつ

Handwritten text in cursive script on the left page, featuring several lines of black ink with red ink accents. The text is written vertically from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of cursive handwriting. There are approximately 10 lines of text.

Handwritten text in cursive script on the right page, featuring several lines of black ink with red ink accents. The text is written vertically from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of cursive handwriting. There are approximately 10 lines of text.



あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに



つひに名残あはれさるる

うねりおききこへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ

あつらひなまらへりしうらみ



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~



Handwritten cursive text, possibly a signature or name.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

(1) 2000年10月20日  
 (2) 2000年10月20日  
 (3) 2000年10月20日  
 (4) 2000年10月20日  
 (5) 2000年10月20日  
 (6) 2000年10月20日  
 (7) 2000年10月20日  
 (8) 2000年10月20日  
 (9) 2000年10月20日  
 (10) 2000年10月20日

(11) 2000年10月20日  
 (12) 2000年10月20日  
 (13) 2000年10月20日  
 (14) 2000年10月20日  
 (15) 2000年10月20日  
 (16) 2000年10月20日  
 (17) 2000年10月20日  
 (18) 2000年10月20日  
 (19) 2000年10月20日  
 (20) 2000年10月20日

よるるるるる

~~よるるるるる~~よるるるるる

よるるるるる

よるるるるる

よるるるるる

よるるるるる

よるるるるる

よるるるるる

よるるるるる

よるるるるる 十二巻

十二月其一家園

よるるるるる

よるるるるる

中のりるるる

自一至五太絵より自六至十

中絵といふ斗為申と

とらふ申のふを絵申也

たつるも柱せまうあつる

云 切りしるるる

かゝ絵の中のりるるる

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

平調をうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

あつちのうらなへ

Handwritten text in cursive style, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive style, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive style, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive style, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive style, possibly a signature or name, with red ink accents.





Handwritten musical notation on the left page, featuring various rhythmic patterns and notes in black ink with red accents.

Handwritten musical notation on the right page, continuing the piece with similar rhythmic patterns and notes in black ink with red accents.

あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく

あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく  
あはれなること  
かたじけなく

うらなひ あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの

あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

あまの あまの あまの

らゆわ 海鳥の振舞

合点中ぬれとよみり

如也

以新く 善むたむたの

今中ぬれとよみり

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

海鳥の振舞

好みの事と云ふは  
うねりぬ人

女房の次弟は女房人妻也

典侍常侍に勿論と云ふは

元三沖薬内膳司出雲國

来女後送して女房人侍

女房人陪膳典侍海士也

知らぬ人かきかへる也

かきかへる也又海士也

なり

海士は海士也

かきかへる也

かきかへる也

かきかへる也

かきかへる也

かきかへる也

かきかへる也

かきかへる也

かきかへる也

かきかへる也

Handwritten text in cursive script on the left page, featuring several lines of black ink with red ink accents. The text is written vertically from right to left.

Handwritten text in cursive script on the right page, featuring several lines of black ink with red ink accents. The text is written vertically from right to left.

Handwritten text in cursive script on the far right page, featuring several lines of black ink with red ink accents. The text is written vertically from right to left.

しんがくし

くろのまうしんく ぬかすげ

これしゆゆあすしん じゆん

しんがくし

しんがくしとくしん じゆん

しんがくし

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

しんがくしとくしん じゆん

語 <sup>5</sup> 高き <sup>4</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>2</sup> 峰 <sup>1</sup> へ <sup>0</sup>

く <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

年 <sup>5</sup> に <sup>4</sup> 似 <sup>3</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>1</sup> の <sup>0</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>0</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>

と <sup>0</sup> 似 <sup>1</sup> た <sup>2</sup> 山 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 峰 <sup>5</sup> へ <sup>0</sup> へ <sup>1</sup> へ <sup>2</sup> へ <sup>3</sup> へ <sup>4</sup> へ <sup>5</sup>





師の心持を記す

一、師の心持を記す

二、師の心持を記す

三、師の心持を記す

四、師の心持を記す

五、師の心持を記す

六、師の心持を記す

七、師の心持を記す

八、師の心持を記す

九、師の心持を記す

十、師の心持を記す

十一、師の心持を記す

十二、師の心持を記す

十三、師の心持を記す

十四、師の心持を記す

十五、師の心持を記す

十六、師の心持を記す

十七、師の心持を記す

十八、師の心持を記す

十九、師の心持を記す

師の心持を記す

一、師の心持を記す

二、師の心持を記す

三、師の心持を記す

四、師の心持を記す

五、師の心持を記す

六、師の心持を記す

七、師の心持を記す

八、師の心持を記す

九、師の心持を記す

十、師の心持を記す

十一、師の心持を記す

十二、師の心持を記す

十三、師の心持を記す

十四、師の心持を記す

十五、師の心持を記す

十六、師の心持を記す

十七、師の心持を記す

十八、師の心持を記す

十九、師の心持を記す

白粉 ~~白粉~~ くらりくらり 花の香  
はるばるの 花の香

花の香 ~~花の香~~ くらりくらり  
くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香  
くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香  
くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香  
くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香  
くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香  
くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香  
くらりくらり 花の香

くらりくらり 花の香

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

源重隆の事  
つまをぬ 源重隆の事  
好むなりし

かきしるはなり

源重隆の事  
いふなりし  
なすはむし

しむるなりし

源重隆の事  
いふなりし  
なすはむし  
しむるなりし

源重隆の事

源重隆の事  
いふなりし  
なすはむし

源重隆の事

源重隆の事  
いふなりし  
なすはむし

源重隆の事  
いふなりし  
なすはむし

源重隆の事

源重隆の事  
いふなりし  
なすはむし

源重隆の事

源氏物語の御覧の御覧

かくはすむるは久しき

温明殿 温明殿中衛

東より神鏡の御覧

ふりてはかきおのり

由侍所とも賢所とも

内侍所とも神鏡の御覧

の御覧とも内侍所の御覧

たかきおのり

温明殿の御覧

御覧

温明殿の御覧

源氏物語の御覧

温明殿の御覧

温明殿の御覧

温明殿の御覧

温明殿の御覧

温明殿の御覧

温明殿の御覧

温明殿の御覧

かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき

かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき

かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき  
かきつるもよほしき

白氏文集第十

夜同歌者高野別

夜泊鸚鵡洲 秋江月澄徹  
隣船有歌者 及發調堪穩絕  
歌罷繼以語 喧声通後咽









くさくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさい

くさくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

くさくさいくさいくさい

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく  
かきくくくくくく  
かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく

かきくくくくくく  
かきくくくくくく

かきくくくくくく  
かきくくくくくく

かきくくくくくく

ついでに...の...  
...  
...

...  
...

...  
...

...

...  
...

...

...  
...

...

...  
...

...

...  
...

...  
...

...

...

...  
...

...

...  
...

...  
...

...  
...



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~東~~ ~~中~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~

~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~ ~~東~~ ~~西~~ ~~南~~ ~~北~~



おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはよう

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

おはよう

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます  
<sup>お</sup>はよう

はあ〜〜〜

よのあ〜 **海**のあ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

あ〜 **あ**のあ〜あ〜あ〜

直前の齋神をいふからし  
いんそうくんとくたの  
この帯も <sup>或</sup> 中帯の帯  
<sup>或</sup> 直前のいんそうくんとくた  
せうくの帯もいんそうく  
は <sup>或</sup> 中帯の帯  
帯も <sup>或</sup> 中帯の帯  
中帯の帯

いんそうくんとくた  
石のいんそうくんとくた  
か <sup>或</sup> 中帯の帯  
帯の帯 <sup>或</sup> 中帯の帯  
中帯の帯 <sup>或</sup> 中帯の帯  
いんそうくんとくた

<sup>或</sup> 中帯の帯  
あなも <sup>或</sup> 中帯の帯  
の <sup>或</sup> 中帯の帯



一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

しんまのたけのこ

あまのこやし

たけのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

あまのこやし

源平の兄弟事さふふよの御託  
久源平の事をいふあつた

さうせしこ 事いふい  
この事いふりそ

源平の事いふと一版いふ事い  
いふ事いふの事いふ

いふ事いふ事い 源平の事い  
いふ事いふ事い

知事いふ事い 久源平の事い  
源平の事い

源平の事い

いふ事いふ事い

いふ事いふ事い

人いふ事い 源平の事い  
源平の事い

いふ事い 源平の事い

源平の事い

源平の事い

皇太后宮藤滿子昭宣女 宣平

九年七月中宮付例ん

班子女王元春 宣平九七

皇太后

九傳曰帝嫡妃曰皇太后

後漢書曰以備內職為后正位

禮記云后之言後言在史之

後也故以女謂後遂皇太后既居

後中后名守和とありあり

宣中申ねし

相りぬる也 讓位の心下也

坊と 東宮坊と

之腹臺ノ腹ノ心之也 宣中後也

心とくく

宣中宣の親類ハ皆孰と

宣中宣の心下也

天下輔佐臣ハ宣中とすと

源氏執柄右大臣能者

或 宣中宣の心下也

宣中宣の心下也



いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

私

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

いふはなほのつらさ

守りおのゝも 海ゆき行啓の  
信りおのゝも

おのゝも 信りおのゝも

信りおのゝも

先帝の御殿の御書

おのゝも 信りおのゝも

私書量の客の御書

おのゝも 信りおのゝも

信りおのゝも

人しおのゝも

信りおのゝも

信りおのゝも

信りおのゝも

信りおのゝも

信りおのゝも

中宮の行啓は 風琴

事もあり 又 殿の御書の事

行帳も 御書の御書

御書

いゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝ

（世に）  
あゝ

あゝ  
あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

墨府  
十八枚

